広報横芝

この広報は各家庭に洩れなく配付します。
発行所・千葉県山武郡横芝町役場（電話）横芝 32・249・339

**広報告知板**

6月は
町県民税
国保税
有線放送使用料
各第1期の納期です

（お忘れなく今月中に納付して下さい）

## 赤いカーネーション

今から五五年程前北米合衆国ウエスト、ヴアジニア洲の或教会にチャルヴイスと呼ぶ夫人の牧師が有った。聖書の十戒から引用し「母の思は無限である、この恩を謝し、擴大な愛情を人にも知らしめよ」と信者を戒めていた。後に夫人が逝くなり、追悼会が開かれたとき、娘のアンナは〃母を思う心〃から一束のカーネーションの花を霊前に供え〃母の思い出〃を来会者に語り、その切々たる愛情に満ちた話は聴衆に少からぬ感銘を与え、「母を敬う運動」となった。赤いカーネーションは、娘アンナが母の霊前に供えた造花を記念するものである。

# なぜ農業構造改善は行われるか

## ――這いつくばる農業から眺め廻す農業へ――

「農業構造改善事業」ということが、どこの農村でも話題になっております。もう一部の市町村では実際に仕事を始めております。この町でも、来年度から行われることになっております。一体農業構造の改善は、実際にどんな方法でやられるのでしょうか……

▽農業もこのままではところで、十年前にくらべれば、たしかに農業のやりかたも、機械が入り、農薬も新しいものができ、技術も進み、耕地整理も進んでおります。人手も昔ほどかからなくなりました。

しかし、農地改革によりほとんど自作農になりましたものの、やはり耕作している面積は、昔と大差ありませんし、耕地を集団化して作業をやりやすくすることもそれ程進んでおりません。米や麦の反当りのとれ高も少ししか殖えていません。そして、さて売る値段となると、特殊な作物を除いては農家の希望する値のようにばかりは売れません。要するに、若干の農耕のやりかたが変って、手間は楽になったが、経費をかけた割には儲からないということが事実のようです。

ですから、世の中の進み具合に合った生活なり、収入が得られないで、都市と農村の差が、だんだんと大きくなるので、若い人が農村から離れていく傾向が進んでいるわけです。

▽農業も大切な産業ですしかし、農業以外の産業がよくなれば、農業はどうなってもかまわない。機械や、織物や、食器や、薬などを外国に売って儲けて、食糧は外国の安いものを買えばよいではないかという考えの人がいるのですが、これは大変な間違いだということです。

なぜならば、日本の恵まれた国土と、気候、水という天然の資源を利用して必要な食糧などをできるだけ国内で間に合せるという、大きな目標を忘れてはならないことが第一です。実際問題として、今でも輸入している農産物が、輸入額全体の二割近くを占めています。国際収支がすぐに景気にひびく実情を思うとき、輸出する物にも、買う国にも限度があり、大巾な期待ができないことを考えると、農作物を、今よりも多く輸入しようにも、国のふところがゆるさないということがいえます。

もう一つは、人の問題ですが、農業で直接働いている人の三割近くいるわけです。そして、農産物を原料として加工している人、農業に使う機械、農薬を作る人などで、農業があるために働いている人が沢山いるわけです。もしも、農業が落ちぶれてしまえば、これらの人は失業です。かといって、他の産業で働くにもこんな沢山の人は、必要がないということになりました。

このようにしてみると、農業という産業は、我が国が今後ますます発展するための基本的な産業で、絶対に必要であるということがいえるわけです。

▽農業にも体質改善をところで、農業が国の経済のなかで、それ程重要な役割をはたす産業であるならば、農産物の価格にしても、耕地整理にしても、いろいろと国がもっと補助すべきだという考えがあります。ごもっともな意見です。しかし、農業のやりかたなり、作るものなど、以上直しようがないというのであれば、直接の補助も必要となるでしょうが、まだまだ、我が国の農業には改造、改良の余地が沢山あるわけです。

この沢山改善の余地のある点に、国なり、県なり、市町村なりが援助して、立派な産業としてのばしていこう、儲かる農業を造る手だてをしようということが、きめられたというわけです。

すでに、進んだ農家では、自分の力だけで、努力してやりとげた人々も沢山あります。一戸でなく数戸が力をだし合って都会の人に負けない所得をあげる農業にはげんでいる方もふえています。このような働き方は非常に正しいやり方なのですが、農業全体から見ると、できる人が少いわけです。また力があっても足ぶみをしている人もいます。そこで、約十年ぐらいの目標で、市町村が農業の建直しを計画し、その計画が実現するように、国の予算や、都道府県の予算、市町村の資金と、農家に対する融資（近代化資金や農林漁業金融公庫からの融資）、この分は農家が返済することになる直接な負担）によって、各農家がばらばらでなく、全体として農業の体質改善を進めようということが始まるわけです。

このように、農業のやりかたをいろいろと建直すことと、国の産業開発という大きな見方に立って政策をたてたり、裏付けをしていくことを、農業構造改善というのです。そして、具体的な仕事として事業を行うことを農業構造改善事業というのです。

▽農業の体質改善はできるのかとにかく、明治以来、一農家平均六体一町歩（一ヘクタール）を耕作し、米と麦を中心とした農業を続けてきたのですから、ここで、面積をふやすことに重点を切りかえるといっても、不可能ではないにしても大変なことで、大改革なわけです。

ただ、昔と世の中がかわってきて、農業の働き手が、だんだん減っています。とくに若い人が減っています。それなのに大体昔と同じ方法で農業はつづけられているので、人手が足りないわけです。雇い切って農地を手ばなすこともできない。反対に農地をふやそうにも、機械を入れようとしても、畜舎を建てるにも金がない。制度上に無理があるという八方ふさがりが、今の姿なのです。

しかし、このままで、なりゆきまかせでよいと考えている人はいないでしょう。何か、皆で力を合せて根本的な改革をやらなければならないことになります。

ところで、根本的なこととなりますと、農業のなかだけでの手なおしというわけにはいきません。ほかの産業を含めた国造りということになります。農業の働き手が減っているということも、結局は農業以外の産業に引っぱられているわけで、これからも予想以上に人が減る可能性がありますので、少い人手で大きな農業の近代化を進めようとしています。ただ人が減るというても、無理に減らすような計画的な方法は、自由経済のわが国ではありませんから、お互いの納得の上で、時代の進みかたに応じた方法で知恵を出しあってやるわけです。日本全国を同じ方法で強制しようと。

▽体質改善のやりかたしかし、今年からはじまる農業構造改善の仕事は、農業から、或程度人手が減るという見方にたって、人の減り方に合った農業のやり方、需要にあった作物の選び方をして農業の発展を進めようとしています。ただ、昔とは違って、農業の働き手が減ってもやっぱり沢山いるわけです。

農業は、一番市原議員、二番早川議員、三番川島議員、四番小川議員、五番鈴木（英）議員、六番八角議員、七番伊藤（博）議員、八番河井議員、九番高橋議員、十番長野議員、十一番斉藤議員、十二番藤城議員、十三番伊藤（右）議員、十四番大木議員、十五番伊藤（謙）議員、十六番岩沢議員、十七番平山議員、十八番鈴木（繁）議員、十九番芹川議員、二十番伊東（巌）議員

以上の通り決定。

○副議長選出について

投票により得票最高位、伊藤（右）議員、伊藤（博）議員同数となり、抽籤の結果伊藤（右）議員に決定。

東　巌議員を議長に決定。

○議席の決定について

抽籤の結果、一番市原議員二番早川議員、三番川島議員、四番小川議員、五番鈴木（英）議員、六番八角議員、七番伊藤（博）議員、八番河井議員、九番高橋議員、十番長野議員、十一番斉藤議員、十二番藤城議員、十三番伊藤（右）議員、十四番大木議員、十五番伊藤（謙）議員、十六番岩沢議員、十七番平山議員、十八番鈴木（繁）議員、十九番芹川議員、二十番伊東（巌）議員

以上の通り決定。

## 議会だより

昭和三十八年第三回横芝町議会臨時議会は、五月六日午前十時に招集され、次の事項を審議決定しました。

○議長選出について

改選後初議会の為、地方自治法第一〇七条の規定により、川島義雄議員が議長となり審議、投票の結果、伊東　巌議員が議長に決定。

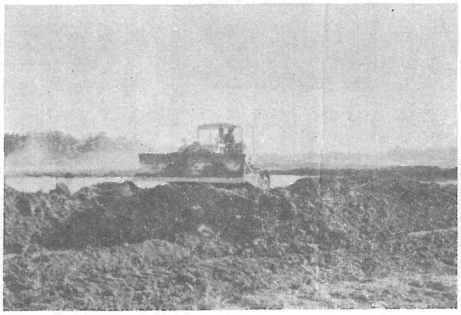
## 横芝町議会議員決る

（いろは順）

横芝町議会議員投票は、去る四月二十日、五会場の投票場で執行された。気付われた天候も晴天に恵まれ出足は上々で全会場を平均すると、九〇・六四％（事実上の不在者を除くと殆んど百％近い）という投票率で、町民各位の愛町精神の表れとして関係者は喜んでいる。

新議員（再選含）の顔ぶれ

| | | | |
|---|---|---|---|
| 河井　昇 | 屋形　農業 | 前出 | 伊東　巌 |
| 小川　潔 | 新島　農業 | 新副議長 | 伊藤　右仲 |
| 大木　正 | 木戸台　農業 | 新議長 | 伊東　巌 |
| 平山　清 | 長倉　農業 | 新 | 藤城　顕義 |
| 早川　公平 | 屋形　農業 | 元 | 尚五月六日初町議会を開き |
| 芹川　昌栄 | 北清水　農業 | 前 | 横芝　時計商 |
| 遠山　正 | 横芝　コンクリート工業 | 新 | 横芝　医師 |
| 右仲　謙 | 中台　農業 | 新 | 横芝　医師 |
| 伊藤　寺方 | 農業 | 新 | 長野　康己 |
| 伊藤　茂雄 | 鳥下　農業 | 前 | 斉藤　元一 |
| 市原　博 | 鳥新　農業 | 新 | 鈴木英太郎 |
| 岩沢　英一 | 横芝　文具商 | 新 | 鈴木　繁 |
| 横芝　団体職員 | 新 | 前 | 横芝　会社員 |



――干拓、土地改良、養魚場施設も機械化で――

## 固定資産評価調査についてお願い

土地と家屋の評価替えのために、いま現地調査を行っております。現地については、役員さん方の協力によって既に終了しておりますが、宅地については上町、本町を終え、いま東町地域を実施中であります。

家屋は上町地域が、近日中に終了するはずですが、土地家屋のいずれにしても、つまりは課税の基礎になるものですから精密な調査が必要です。

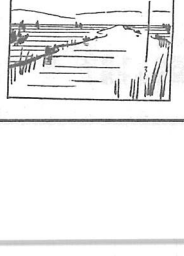
特に、家屋については一棟ごとの格差が大きいので、その精度も高いわけです。したがって、調査は家屋の内部にまでも及ぶ関係から、当さんには不愉快なこともあろうかと思われます。

しかし、これは、適正な価格を求めるために欠くことのできない調査でありますので、この点ご理解の上ご協力をいただきたくお願いいたします。なお、調査にお伺いする場合は、まえもって回覧板などでご連絡いたします。

また、係員は必らず身分証明書を携帯しております。尚職務上知り得た個人の秘密は決して他にもらすことはできないことになっておりますので此の調査についての全面的な御協力をお願いいたします。

## もう使用出来ない通学道路際のごみ捨場

別に条例等で定めた訳ではなかったが、何時かごみ捨場となってしまっていた東町方面通学道路際のごみ捨場は使用禁止となりました。今後は古川地域に出来たじん芥焼却所で専門の係によって処理されることになりましたので、今までごみ捨場に持って行っていたようなものは、じん芥焼却所まで運ぶか又は業者に依頼して運んでもらうかすることになりました。若し、これから後、今までの通学道路際のごみ捨場にごみ類、汚物その他を捨てると、条例違反で厳重に罰せられることになりますので、特に御注意下さるように、と役場の係は云っております。



的にやるわけではありません。国なり府県なり市町村が補助金を出したり援助する基準はありますが、あくまでも市町村で自由に考えた農業の近代化方式が中心になるわけで、金さえ或程度自由に使える見込がある地域では、相当大がかりな進んだ方法が行なわれるでしょうし、金も熱意もない地域では、わずかな予算を適当に使ってお茶をにごすことになりかねません。どのような道を選ぶのも自由なわけですが、要は皆さんがこの大事業に対して、どう考え何を希望し、前向きで進むか、無関心ですごすかにかかっているのです。（以下次号）